



まちづくり・コミュニティ

町会・自治会

防犯・防災・みまもり

こども

教育

シニアライフ

健康

スポーツ

芸術・文化・趣味

環境

ふくしとサポート

NPO・ボランティア

国際交流

男女共同参画

農業・商工業

ホーム > 市民レポーター > 「東久留米歴史散歩（四） 南沢氷川神社」

今回は東久留米市でポピュラーな歴史建造物の南沢氷川神社を訪ねてみました。

氷川神社は東久留米市の中央部にあり、黒目川の支流である落合川上流「南沢緑地保全地域」の湧水地にあります。境内の前後の川に囲まれた高台に神社はありますが、いつ建立されたのかは、はっきりしていません。しかし、建造された時に上納される棟札（むねふだ、東久留米市指定有形文化財）により推測は出来ます。それによれば、承応三年（1654）に再建されたことになっています。従って、それ以前からあったことを考えると、かなり昔から氷川神社はあったこととなります。

棟札には久世大和守、神谷与七郎、峰屋半之丞の三名の名前が残っており、この三名の助力を得て再建されました。久世大和守は江戸幕府の老中を務めた久世広之のことで、老中を十六年間務めました。広之は関宿藩（せきやど、千葉県）の藩主でしたが、慶長十四年（1609）に東久留米の南沢で生まれました。弘之の父は家康に仕えていましたが、家康の勘気にふれたために、前沢で蟄居させられていました。



その間に広之は生まれましたが、元和八年（1622）秀忠の小姓になり、その後、家光の小姓組に加えられて出世していったといわれています。前沢が広之の知行地であったとの説もありますが、明確なことはわかっていません。

神谷与七郎は旗本でしたが、南沢村は江戸時代を通じて神谷家の知行地でした。最初は二百石の知行でしたが、最後は千五百石までなりました。神谷与七郎の寄進にはそういった背景がありました。神谷家の墓は浄牧院（大門町）にあり、九代にわたる当主と正室らのものがあります。峰屋半之丞は地頭であったとされ、この地の実力者であった考えられます。氷川神社は三人の援助を受けて南沢村、田無村、入間村（入間市）、下新井村（所沢市）の氏子達によって創建されました。神社は寺と違って檀家はなく、地域の氏子の安寧をはかっています。（左の写真は南沢氷川神社）

南沢は東久留米市でも最も湧水に恵まれた地域ですが、南沢氷川神社は湧水守護神として崇拝されています。

神社は湧水から出た小川と落合川にはさまる高台の場所にあります。沢頭の水源地がここにあり、もともとそれを守る守護神でしたが集落の発展により氷川神社として創建され現在に続いています。

今年、十月には南沢獅子舞（東久留米市指定無形民俗文化財）が神社に奉納されました。獅子舞は江戸時代から南沢に住む氏子の長男に伝えられてきたもので、五穀豊穡、神に感謝の舞で市民に親しまれています。（右の写真は南沢湧水群）

市民記者「浅羽芳久(南町 在住)」

参考図書「東久留米の江戸時代」（東久留米市教育委員会）

